

# 重要連携の官民学産

## 短命県返上を目標に

### 挑戦!! 健康寿命

弘前大COIプロジェクト

⑤・完

### 中路拠点長に聞く



「短命県返上」に向かつて産学官民が連携し、健康づくり分野で多くの成果を生み出してきた弘前大COI。国の中間評価は最高評価の「S+」。2期連続の最高評価獲得に国内外から熱い視線が注がれている。

中路拠点長(67)は、「前代未聞」の高評価に「非常にうれし

い。われわれが起こしている社会イノベーションを継続する上で、評価をいただくことは励みになる。さらに、周囲の注目を集めるきっかけにもなり前に進む活力となる」と率直に喜びを語る。

◇ ◇

弘前大COIには多くの企業や団体などが参画し、民間投資額は年間約3億円にも上る。弘前大COI全体の経済波及効果は約242億円、雇用創出は約1812人、医療費抑制効果額は約527億円と見込まれている。

中路拠点長は、企業参画について「外部資金が入り、経済活動に影響を及ぼす。経済活性化を図りながら健康づくりを高めていく」と医療費も下がる。少子化対策、経済活性化は地方創生につながり、この真ん中に健康づくりがある」との見方を示し、歓迎する。

二一が異なる産学官民が連携できる仕組み

役は「主役は市民。短命県返上にこだわって、産学官民連携の重要性を語った中路拠点長

「6本柱は初めからあったわけではない。たくさん壁を乗り越えてきた。」

「簡単なことではないが、関心の異なる産学官民を動かさないと社会を動かす研究はできない」と4者の結び付けに力を注いできた。

産学を引き付ける「若木健康プロジェクト」と、官民が関心を寄せる「短命県返上」への取り組みが、財産といふ、二つの財産がうまく融合してきた。弘前大COIがプラットフォームの役割を果たしている」とさらなる根付きを目指す。

◇ ◇

これまでの6年で、「短命県返上」と「地域活性化」を同時に実現する戦略として、①地域の学校②職域③若木健康増進プロジェクト④健やか力推進センター(県医師会付属)⑤啓発型健診⑥6本柱の系地が出来上がってきた。

えるために出来てきた。なんと6本柱が倒れない状況を作った」とし、最終的な目標として「短命県返上。返上になった時、世界の注目は青森に注がれる。経済効果が生まれ、こうすれば人間は健康になるという答えを出したい」と力を込める。

17年に厚労省から発表された都道府県別平均寿命ランキングでは、男女ともに最下位だったものの、男性の平均寿命の伸び率が全国3位。最下位脱出への兆しは見えてきた。

「健やか力推進センターを中心に健康教育やリーダー育成に取り組み、特に死亡に懸念が残る一次産業に携わる人たちに訴えたい」と強調する中路拠点長。「これから短命県返上に向けたっていく。主役は市民。どれだけ浸透できるかだ。真剣に汗をかけるか。魅力あるプラットフォームを作っていく」と前を見据える。

(成田真由美)

中路拠点長が05年に旗揚げした若木健康増進プロジェクトは、蓄積された健康ビッグデータをオープンにするなど弘前大COIの発展を支えてきた。15年以上が経過するが、健康調査や推進活動が現在も地域で続いている。

「10年で一般市民と触れ合う場をもつた。社会医学や公衆衛生の場に携わる者としてその意義は大きい。地域活動を見に行き、一生懸命やっている姿をみると感激する」と語り、「連携によりいろんな場所に仲間ができたことが財産。やって良かったと心から思」と振り返る。

9年間の弘前大COIプロジェクトは、いよいよ「完成期」に入る。今後は商品化や啓発型健診、社会実装のほか、学校、職域、地域での活動も今以上に盛り上げていく構えだ。